

# 社報 御霊本宮

第84号

発行者

御霊神社本宮  
宮司 藤井利夫  
五條市靈安寺町  
0747-23-0178

発行日

令和3年  
8月15日

## 祖 霊 祭

日本では、仏教にしても神道にしても、仏や神を敬いますがそれ以上に祖先を崇拝します。これは、自分や家族あるいは集団は、先祖に負うものと考えているからです。そして、感謝を怠らないことが、先祖による守護を得ることにつながり、より幸せな生活を送るために、または不幸に見舞われないために不可欠であると考えているからです。



そして、旧暦七月十五日には「みたままつり」を行ってきました。その前の七日には「棚機女たなはたつめ」により、神に供える衣を作り、神を迎えて禊みそぎの祭りである「七夕祭しちせつまつり」を行います。こうやって心身を清め、先祖を迎え、先祖と親しく数日を過ごします。

一般に盆とは、孟蘭盆うらぼんの略とされ、孟蘭盆には梵語で倒懸たかまがりになっているのを救うという意味があり、あの世で非常な苦しみを受けている死者を供養し救う仏教行事とされています。

しかし、供え物を載せる容器を日本の古語で「ボン」と言ったことから盆になったという説もあり、盆行事は、日本に古くからあった祖霊祭の名残であろうとも考えられています。

正月や盆など祖先の霊は年中いく度も子孫のもとを訪れます。正月棚や盆棚（先祖棚）はその際に祖先を迎える場所で、神棚や御霊舎みたままやの原型とも考えられています。

なお、祖霊祭は祖霊舎（仏教では仏壇）で行うもので、神棚とは別のものです。迎え火、送り火はもともと日本古来の習俗として行われていた、祖先の霊を鎮める供養の形であったと考えられています。また、精霊流し、精霊祭りといった行事は、亡くなった人の鎮魂と同時に、厄災をあの世へ持ち帰ってもらうようにと行っていたもので「祓はらえ」の信仰があります。火で燃やす、水に流すなど、いずれもこの世から厄災を払拭するための方法として、取り入れられました。

宇智郡 狛犬めぐり

三在町 龍池神社

龍池神社りゅうちには四対の狛犬があり、そのうちの拜殿前の狛犬は明治二十五年（一八九二）に奉納されています。

垂れ耳ですが、途中から起き上がっているのが特徴的です。脚の走毛はしりげが大きく刻まれています。尾の巻毛も大きく渦巻いています。頭部から背中に流れる鬣たけがみも太くなっています。これらの彫刻により、とても躍動的に見える狛犬となっています。



畔形



阿形

# 土偶から見る 縄文人の信仰

(中)

弥生時代以降、もともと純粋な形で縄文的習俗を引き継いだと言われるアイヌ民族は、役目を終えたモノを廃棄する際、必ずどこかを傷つけてから捨てたといひます。

アイヌの世界観によると、森羅万象に魂があり、目に見える姿はその「衣装」に他なりません。亡くなった人、動物、道具が無事に「あの世」へ行くためには、その「衣装」を脱がしてや

らなければなりません。あの世へ行けるのは魂だけだからです。多くの研究者が、このアイヌの習俗を縄文的習俗の名残だと考えています。この「壊さない」とあの世へ行けない」という死生観から論じられるのが「鎮魂説」です。

縄文人は、人が亡くなると故人を象徴する精霊の像「土偶」を作り、あの世へ持たせるために壊してから埋めたのではないか、というのです。これなら、土偶にわずかながら女性像ではないものが存在する理由がクリアされます。亡くなるのは当然、女性だけで

はないからです。

では逆に女性像が圧倒的に多いのはなぜか？それは、縄文時代の女性の死因として、出産というのがとても多かったからです。たとえ無事に出産できたとしても、出産経験者の約80%が若くして亡くなっていったそうです。現代人は忘れていますが、新しい命を産むのは、とてもリスクなことなのです。

「奇妙な」見た目の土偶が多いのは「ハレの日（出産の日）」の特別なお化粧、あるいは入れ墨を表すからだといひます。お化粧やタトゥーという

八百万の神々

## 天児屋命

天岩戸にこもった天照大神を引き出すために、神々が神事を行った際、祝詞を奏した神です。

名前の「コヤネ」は、元は「言綾根」という意味であったとされます。「綾なす」と使用されるこの文字は、美しいとか綺麗であるという意味をあらわします。つまり、「コヤ」の部分で綺麗な言葉を発する神様ということになります。

天児屋根命は天皇に代々仕えた中臣氏の祖先となる神様です。さらにその子孫として藤原氏があり、日本の文化を作るうえで大きな意味を持つていました。

天児屋命を祀る主な神社としては、奈良市の春日大社、東大阪市の枚岡神社、千葉県香取市の香取神宮があります。学業成就などの御利益があるとされています。

## 仮面のビーナス

茅野市湖東の中ッ原遺跡から出土した全身がほぼ完存する大形土偶です。高さは34cm、重さは2.7kgあります。顔に仮面をつけた



姿を思わせる形であることから、一般に仮面土偶と呼ばれるタイプの土偶です。今から約4000年前の縄文時代後期前半に作られました。

お墓と考えられる穴が密集する場所で、穴の中に横たわるように埋められた状態で出土しましたが、これは人為的に取り外したことが明らかになっています。

願い虚しく叶わなかったとき、鎮魂の意味を込めて土偶を作ったのかもかもしれません。

# 五條十八景を訪ねて

## 第三景 「大峰積雪」



往昔 山靈 駆けて平らかならず  
 銀屏 玉雪 なほ崢嶸  
 雲梯 鳥道 求むれど跡なし  
 独り仙人有りて 鶴に騎りて行く

昔、山の神々が駆け巡ったためにこんなに険しくなったのか。雪に蔽われ銀の屏風を立てたような山の高さよ。雲にかけられたはしごも鳥の飛び行く道も尋ねるすべもない。ただ独り仙人が鶴に乗って飛んでいくだけである。

大峯山という名のピークは無く、山上ヶ岳（一七一九m）や稲村ヶ岳（一七二六m）、近畿最高峰の八経ヶ岳（一九一五m）などの山々の総称として使われます。

山上ヶ岳は、修験道の祖・役行者が開いたわが国修験道発祥の地で、修験道の道場としての威容を誇っています。岩壁の鎖を頼りに登る「鐘掛岩」、絶壁から逆さづりにされる「西の覗」などの修行場が有名です。山頂には、わが国最高所の国重要文化財のお寺であり、世界遺産でもある「大峯山寺」があります。



大峯山中にある「女人結界門」

## 七夕祭を

### 斎行しました

七日、午後七時より七夕祭を斎行し、参列者の皆様の健康安全を祈願しました。あわせて、神笹や一願一燈に書かれた願いをご祭神に奉告申し上げました。また、新型コロナウイルス変異株の終息も祈願致しました。参列者には木製の花御札「沢瀉」または「夕顔」を授与致しました。

これに先立ち「一願一燈」を斎行し、参道に燈明が灯されました。雅楽の奉納もあり、幻想的な空間が醸し出されていました。



お祭り  
 研究女子会が  
 発足しました

「まつり結び新聞」を社頭に置かせてほしいと依頼がありました。お祭りが大好きな社会人・学生六人が結成した「お祭り研究女子会」からでした。メンバーの所在地は神奈川・埼玉・新潟・長崎・イタリアと多岐にわたっています。

各地域の祭りの紹介や、本社もお世話になっている宮田宣也氏の紹介、海外から見た日本の祭と題したインタビューなど、趣向を凝らした内容となっています。

会員を募集しています。インスタグラム @matsuri.joshikai まで。

Instagram @goryohongu  
 Twitter @goryohongu




#御霊本宮 #goryohongu を付けて投稿してください。  
 公式ホームページ  
<http://goryojinja.or.jp>



日本書紀にみる

# 十二代景行天皇(一)

大足彦忍代別天皇は垂仁天皇の第三子です。

母が、丹波道主王の娘の日葉洲媛命です。

垂仁天皇の三十七年に皇太子となりました。時に、年二十一歳。

九十九年春二月、垂仁天皇は崩御しました。

元年秋七月十一日、太子は皇位につかれました。よって年号を改めました。

この年は太歳辛未です。

二年春三月三日、播磨稻日大郎姫を皇后としました。

后は二人の男子を生みました。

第一を大碓皇子、第二を小碓尊といいます。

その大碓皇子と小碓尊は、一日に同じ胞に双生児として生まれました。天皇

はこれを不審に思い、白に向って叫び声をあげました。

そこでこの二人の王を名づけて大碓、小碓と言います。

小碓尊はまたの名を日本童男。または日本武尊といいます。幼い時から

雄々しい性格でした。壮年になると容貌は溢れるばかりの逞しさでした。身

の丈は一丈(約3m)、力は鼎(祭祀用の大型の青銅器)を持ち上げられる

ほどでした。

三年春二月一日、紀伊国に行幸された、諸々の神祇をお祭りしようとしたが、占ってみると吉と出ませんでした。

そこで行幸を中止しました。屋主忍男武雄心命を遣わして祭ら

せました。武雄心命は阿備の柏原にて、神祇を祀りました。そこに九年住

みました。紀直の先祖である菟道彦の娘、影媛を娶って、武内宿禰を生ま

せました。

四年春二月十一日、天皇は美濃にお出でになった。

お側の者が、「この国に美人がいま

皇子の娘です」と言いました。

天皇は自分の妃としたいと思い、弟媛の家に行きました。

弟媛は天皇が来たときいて、竹林に隠れました。天皇は弟媛を引き出そう

と考えて、泳宮にいて、鯉を池に放つて、朝夕これを見て遊びました。

あるとき、弟媛はその鯉の遊ぶのを見ようと思つて、こつそりやってきて

池を見ました。天皇はそれを引きとめました。弟媛が考えるのに、夫婦の道

は古も今も同じである。しかし、ああだこうだと問い質すこともできず困

りました。

そこで天皇にお願いして、「私は交接は望みません。恐れ多い仰せのため

大殿の中に召されましたが、快くありません。顔は美しくなく、後宮にお仕

えすることはできません。私の姉は八坂入媛といひ、顔も良く志も貞潔で

す。どうぞ後宮に召し入れて下さい」と言いました。

(次号につづく)

万葉の花たち

## ねぶ(ネムノキ)

晝は咲き

夜は戀ひ寝る

合歓木の花

君のみ見めや

戯奴さへに見よ

紀郎女(巻八一―四六一)



昼は咲いて夜は恋いつつ眠る合歓木の花を主だけが見てよいものだろうか。お前も見なさいよ。

紀郎女が大伴家持に合歓の花を贈ったときに添えた歌です。年上の紀郎女が自身を「君」と呼び、年下の家持を「戯奴」と戯れて呼んでいます。

合歓木の花は、昼は閉じ夕方方に花を開いて夜の間咲き続けます。逆に葉は夜になるとぴたりと閉じ合わさつて眠っているように見えることからネムノキの名前が付けられました。